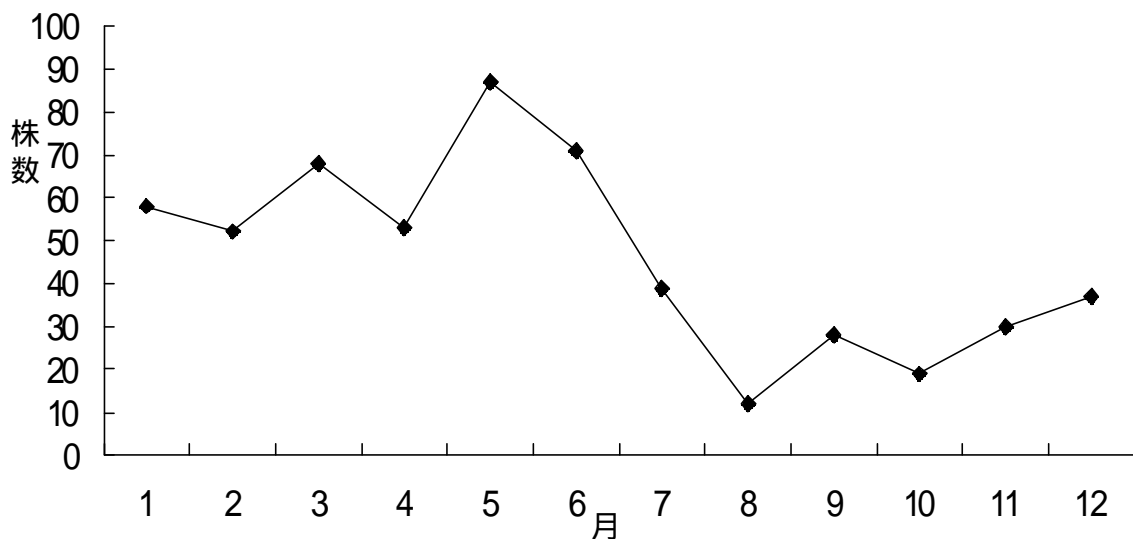


A群溶血性レンサ球菌検査状況

A群溶菌による感染症は咽頭炎，扁桃炎，猩紅熱，リウマチ熱及び各種化膿性疾患などの多様な疾病像を呈し，なかでも飛沫感染による咽頭炎の発生は，幼児，学童を中心に毎年季節的な流行を繰り返しています。

2002年に当所で検査された，咽頭材料由来のA群溶血レンサ球菌は554株でした。月別の検査数では，3月（68株），5月（87株），6月（71株）が多くなっています。

A群溶血レンサ球菌の月別検査状況（2002年）



血清型別では、T12型が最も多く、次いでT28型，T4型，T3型，T1型の順で、その他に7血清型が検出されました。年次別推移では，2001年と比較してT3型が増加し、逆にT1型，T12型が減少していました。また、溶血レンサ球菌レファレンスセンター会議の報告では、T1型，T4型，T12型，が全国的に多く分離されています。

薬剤感受性試験（ディスク法）の結果では、アンピシリン，セファゾリン，に対してはすべて感受性でした。エリスロマイシン，ミノサイクリン，テトラサイクリン，克林ダマイシンに対しては耐性菌がみられました。